

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に関する基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを伝え合ったりする力の育成を目指す。 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、学んだことをもとに生活の中で生かしたり親しんだりする態度の育成を目指す。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 55.0% </div> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、定期考査や日々の授業の様子から「漢字の読み書き能力」に課題が見られる。授業内で、学んだ漢字を意識して使わせることで、漢字の苦手意識をなくし、漢字の学習に積極的に取り組ませることが必要である。 ・2年生は定期考査や日々の授業の様子から「語彙力」について課題が見られる。教科書で出てくる語句および教科書外の語句でも必要に応じて語句の意味の確認を行い語彙力・読解力を高めさせる。 ・3年生は、全国学力・学習状況調査の結果から「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られた。文法や語句の使い方など日常生活と結び付けて、継続的に学習させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教えて考えさせる授業」を実践し、ペア活動やグループ活動等を取り入れながら、複線型授業を進めていく。 ・学習内容の定着を図るため、漢字や文法などの小テストを実施する。 ・単元の初めに語句の意味や使い方、漢字の読み方などを確認する時間を確保したうえで、内容の理解に取り組ませる。 ・生徒同士で話し合いや練習を積み重ねることで、課題を解決するための筋道を考えたり、他の人の意見を参考に自分の意見をまとめたりする活動を多く取り入れる。 ・振り返りシートや単元のまとめを書く際、学習した漢字や語句などをできるだけ使い、自分の表現に役立てるように指導を行っていく。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	<p>○広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。そのために、以下の目標を設定する。</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土と歴史、現代の政治・経済、国際社会等に関して理解する。 調査・諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力を養う。 思考・判断したことを説明したり、それらに基に議論したりする力を養う。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他の国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、小学校の学習内容を生かしながら、中学校での学習内容に関する基礎的な知識・技能を定着させようと努力する生徒が多い。一方で、既習事項を活用して資料を読み取り、適切にまとめることが課題である。 2年生は、既習事項を活用して資料を読み取り、自分の意見や考えを適切に表現しようと努力することのできる生徒が多い。また、ワークシートなど授業中の取り組みには非常に意欲的である。複数の資料を活用しながら、社会的な知識を活用して表現することが課題である。 3年生は定期考査において一問一答の問題では適切な答えを導く出すことはできたが、ポートフォリオ(振り返りシート)の取り組みからは知識を活用することによる「概念的な知識」の理解について課題が見られた。そのため、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する問いに対して、「おおむね満足できる」解答を導き出すことが困難な生徒が多かった。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返りシートや小テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を図る。また、ルーブリックなどを活用し、社会科の見方・考え方を働かせる課題に対する表現力を磨いていく。 写真や地図、グラフなどの資料を多く提示し、資料から何が読み取れるのかを考えさせる活動を取り入れる。また、ペアワークやグループワークを通して、読み取った情報を他者に説明するなどの対話的な活動を多く取り入れる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複線型授業を実践し、生徒が社会科の見方・考え方を広げたり深めたりできるよう、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力や説明・議論できる力を養う。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に単元のまとめを通して、振り返りシートなどを活用しながら、よりよい社会の実現することをテーマに記述させることによって、主体的に取り組もうとする態度を身に付けさせる。 毎時間のワークシートやレポートなどを積極的に評価し、学びの調整や粘り強く学習に取り組もうとする姿勢を身に付けさせる。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用やワークシート等の教材の工夫によって、分かる授業を実践していく。また、色チョークで重要度を可視化するなどユニバーサルデザインの視点を取り入れる。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の基礎・基本となる事項を理解し、知識として確実な定着を図る態度を育成する。 ・事象の変化や対応の特徴を見だし、図や表、式、グラフを相互に関連付けて表現できる力を育成する。 ・論理的に考え、手順をしっかりと踏み、相手に数学的な説明ができる力を育成する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 52.0% </div> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は基本的な計算方法は授業内で理解できている。複雑な計算になると、正答できない生徒が増えることに課題がある。 ・2年生は基礎的な知識・理解や技能は、概ね定着しつつあるが、数学的な思考力・判断力・表現力の習熟に課題があり、記述式の問題の正答率が低い傾向にある。普段の授業から考え方を言語化する習慣を身に付けていく必要がある。 ・3年生は全国学力・学習状況調査の結果において、どの領域も全国平均より正答率が上回っているが、「数と式」以外の領域について、都平均を下回っている。特に、「関数」は 3.7 ポイント、「データの活用」は 2.2 ポイント下回っている。1・2年次に学習した基礎的な計算や図形の知識・技能は身につけているが、2年次に学習する「場合の数・確率」に関する知識の定着に課題がある。また、どの領域においても、「日常生活への利用・活用問題」の正答率・無回答率に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教えて考えさせる授業」を実践し、「教師からの説明」と「理解確認」の場面で基礎的な知識・技能を身に付け、「理解深化」の場面では、課題に対して問題解決の過程を重視し、複数の解法を考えさせたり、自分の考えを相手に伝え、解決に向かう学び合いの活動を取り入れたりすることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・毎時間授業の始めに、計算ドリル演習を行い、基礎学力の定着を図る。 ・習熟度別少人数授業を展開し、与えられた課題を、図や表、式、グラフを活用し、筋道を立てて考えたり、演繹的に説明したりする活動を充実する。 ・「データの活用」(1年…データの分析と活用、2年…確率、箱ひげ図)についてより定着を図るため、「データの活用」が実際にどのように役立つかを具体的にイメージできるように、生徒が日常生活で遭遇する事象についての問題を授業で扱うようにする。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
理科	<p>理科においては、自然現象を科学的に探究するための「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力をバランスよく育成することを目指す。具体的には、基礎的・基本的な概念や法則を正確に理解し活用する力、観察・実験を通して課題を見だし仮説を立てる力、得られたデータをもとに根拠を明確にして考察する力、さらにその結果を表現し他者と共有する力を育成していく。また、自然や科学技術への関心を高め、自ら課題を見つけて解決しようとする意欲を持たせることも重視して指導を行っていく。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">本校における全国学力・学習状況調査 IRT スコア 486</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は基本的な知識・技能を身につける必要があるため、繰り返しの演習やパフォーマンステストを実施する。 ・2年生は実験や観察などの経験が乏しく、基本的技能を正しく身につけたうえで、結果を考察につなげ、深い学びにつなげる必要がある。 ・3年生は、全国学力・学習状況調査の結果において、考察や仮説立案、実験方法の選択など「科学的に探究する力」を問う問題の正答率が低い傾向が見られた。例えば、実験を確かなものにするために必要な実験を選択し予想を記述する2(1)の問題では本校の正答率は8.1%(全国14.0%)であり、極めて低い水準であった。また、地層の性質から水の染み出る場所を判断する1(3)は32.3%(全国36.2%)、仮説が正しい場合の実験結果を予想する3(1)は33.5%(全国34.9%)と全国平均との差も小さく、知識の活用力に課題がある。さらに、課題設定や探究の振り返りを記述する1(2)・1(6)では無解答率が7.8~9.4%と高く、表現力や自信の不足が課題である。これらの課題解決を目指し、知識定着と活用のバランスを重視した授業改善を進めていく。 	<p>知識の定着を図るだけでなく、予想→実験→考察→共有の学習プロセスを重視した授業改善を行っていく。実験前に必ず予想を書かせる活動や、データの整理方法の指導、結果の根拠を明確にした考察練習を計画的に取り入れる。</p> <p>記述に苦手意識を持つ生徒には穴埋め形式での記述方法を提示し、相互評価を行うことで表現力を高めていく。</p> <p>さらにICTを活用し、シミュレーション教材や動画分析を用いて基礎概念を視覚的に理解させる。教員間での授業研究や公開授業を通して指導方法を共有し、課題を抱える生徒へのフォローアップ体制を整え、全ての生徒の資質・能力を着実に伸ばしていくことを目指す。</p>

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の反省や振り返りを通して、基礎的な知識・技能の向上や創意工夫して表現する力、他者と協働しながら演奏表現を工夫する力を養う。 ・ 曲や演奏の楽しさを見出す力、作曲家や演奏家の思いや意図を感じながら鑑賞する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生は授業を通して、授業での規範意識や提出物、基礎的知識が身につけていないことに課題がある。 ・ 2年生は授業を通して他者と協働しながら創意工夫した表現を主体的に考えることに課題がある。 ・ 3年生は実技試験や演奏において創意工夫した表現が満足に達成することができないと悩む生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートの工夫や資料等、ポイントを絞って提示することで分かりやすい授業の実践を行う。 ・ 生徒の実態や達成度を多面的多角的に観察し、難易度困難査定をよく吟味して課題の設定を行う。 ・ グーグルクラスルームを中心に生徒のデータ管理や課題の提示を分かりやすく設定し、ICTを活用する授業を多く設定し、他者との協働、学び方の選択ができる環境を設定する。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、多様な価値観を形成し、表現方法を忍耐強く自己努力し、創意工夫することで、創造的に表すことができる能力を養う。 ・美術文化と豊かに関わる資質・能力を養い、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて豊かに発想や構想ができる能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、対象や事象を造形的な視点で捉え、生徒の主体的・自律的な学習態度を育み、コミュニケーションを通して造形活動を幅広く積んでいくことが必要である。 ・2年生は、美術や美術文化を理解し集中して表現活動に取り組む姿勢はできているが、表現の意図と工夫、美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めていく経験が必要である。 ・3年生は、美術や美術文化に対する知識や理解力を発揮し表現活動に取り組むことはできているが、生み出した主題を追究し、さらに社会的広い視点で表現を発展させて社会生活に生かせる創造性を培うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教師からの説明」、「理解確認」、「理解深化」、「自己評価」の4つ段階からなる「教えて考えさせる授業」を実践し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けて表現活動に取り組み、多角的多面的な視点で創造性を発揮し表現することにより、自己の達成感・充実感が味わえるような授業を目指す。 ・他者と協働しながら活動をする際には、自分の考えを他者に的確に伝え、クラス全体の表現活動がより充実するような話し合い活動を行う。 ・自然や身の回りの事物や環境から社会的にも幅広く表現の対象を捉え、美術が生活や社会において重要な役割を果たしていることを実感できるようにする。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の視点に立ち、運動への親和的態度を養う。 ・運動技能の向上だけでなく、「する」・「みる」・「支える」の観点から運動を実施する能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果から本校の課題は全身持久力(20m シャトルラン、長距離走)、スピード(50m 走)の二つの項目にあり、走ることが苦手な生徒が多い。 ・1年生は運動に対して消極的な一面があり、積極的に取り組むために運動に対して親和的な態度、また他者と協働的に学習を行うために周囲への配慮や安全に関して知識を身に付ける必要がある。 ・2年生は積極的に活動に取り組む。課題として、自分の考えを他者に伝えたり、協働的な学習の中で、課題解決方法を思考したり、発言したりすることが苦手な生徒が多い。 ・3年生は積極的に運動に取り組む。考えを他者に伝えたり、話し合い活動を積極的に行う一方で、他者と協力したり、フェアにスポーツに取り組む姿勢を身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「走る」ことを苦手とする生徒が多い。その根本には「運動嫌い」、「体を動かすことが嫌」という理由が挙げられる。その理由を取り除くために、授業のはじめに「走る」活動を多く取り組み、苦手意識の払拭に努める。 ・課題解決能力を身に付けさせるために、生徒同士で話し合い活動の時間を設けて、協働的学習を行う。課題を解決するためには自分自身の理解を高めることも必要だが、教え合い活動も有効である。授業の中で生徒同士の教え合い活動の充実を図る。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 互いの意見交換を大切に、情報共有する中で、創意・工夫ある作品作りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、創意工夫する能力を生かし、お互いに情報共有する中で技能を磨き知識を高める。 2年生は、柔軟に考えを深められるよう主体的に学ぶ姿勢を養う。 3年生は、主体的に学習する中で、生活に役立つ技能を身に着け、知識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりを通して、創造力を高めさせ、意欲的に取り組めるよう個別に対応していきたい。 多種多様な情報収集する中で、正しい判断・処理を積み重ね、分かりやすく発信ができるように声掛けをする。 iPad・PCを活用できるよう声掛けをする。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
外国語 (英語・国際)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な知識・技能の定着をめざす。 ・ 読解力の向上と読み取った情報をもとに考える資質能力の育成を目指す。 ・ 主体的・対話的に学習に取り組む、自らの学習の課題を把握し、その解決に向けて粘り強く取り組むことのできる資質・能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生は、標準学力調査(CBT)の結果では、区平均 85.3%に比べ、81.4%で、-3.9点であった。また、「書くこと」については、区平均と比較して、-5点でこちらも区平均を下回った。しかし、全体の水準が高いため、区平均とほぼ同等の能力値であった。また、基本的な知識は身につけているので、今後はその知識を活用する活動を増やし、話す、書く能力を高めていきたい。 ・ 2年生は、標準学力調査(CBT)の結果では、区平均 65.8%に比べ、58.3%で、-7.5点であった。また、「書くこと」については、区平均と比較して、-7.1点でこちらも区平均を下回った。分布をみると基礎的な知識・技能の定着が不十分な生徒が多くいる。そして「聞く」「読む」「書く」において課題が見られる。 ・ 3年生は、標準学力調査(CBT)の結果では、区平均 67.1%に比べ、73.1%で、+6点であった。また、「書くこと」については、区平均と比較して、+11.6点で大きく上回っていた。自分の考えを文章で書いたりすることに優れている生徒が多い。積極的にコミュニケーションを図る姿が授業中に見ることができる。今後の課題としては、長文等の読解スピードをさらに身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「教えて考えさせる授業」を実践し、学力の低い生徒でも基礎的な知識・技能を習得し、自らの学習課題を把握し、高度な課題を取り組むことができるようにする。また、学力が高い生徒は、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用する課題に取り組み、主体的かつ深い学びにつながるようにする。 ・ 学習内容の定着をより深く図るために、引き続き小テストを実施する。定期考査では、基本文や重要表現を理解しているかを確認し、定着を図るとともにそれらを活用する能力も確認する。 ・ 読み取った情報や内容を他の生徒に説明をする等の活動及び自分の意見や考えを伝える活動をさらに充実させる。 ・ 長文等の読解スピードをさらに身に付けるために、多読の授業を実施する。 ・ 複線型授業を実践し、探求学習や発表活動などで、考え方を深めるために、課題の解決に向けて選択・判断したりする力や自分の考えを説明することができるようにする。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
道徳	<p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>	<p>・ルールを守るという規範意識やより良い学校・学級づくりに貢献しようとする意識に全体的に課題がある。道徳で学び、考えたことを実生活に活かすために、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う発問を工夫する必要がある。</p>	<p>・各学年の教員による道徳のローテーション授業を実施し、生徒の多面的・多角的な理解に努めている。</p> <p>・発問や振り返りの際に、道徳的価値の理解を自分自身の関わりの中で深めているかどうかの視点を入れていく。</p> <p>①読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージしているか。</p> <p>②現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか。</p> <p>③道徳的な問題に対し自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値を更に深めているか。</p> <p>④道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉えているか。</p>

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
特別活動	<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する資質・能力を育成することを旨とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付ける。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 ・自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係をより良く形成したり、学級・学年などの社会集団をより良くしたりしていこうとする態度が十分に養われていないことが課題である。生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ解決する力の不足、規範意識の低下などが表面化している。 ・好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級・学年の活動や学校行事などにおいて、係生徒を中心とした生徒同士の活動の活発化を図り、生徒同士の好ましい人間関係の構築を図る。その上で社会性を育成していく。 ・褒める場面を作り、生徒の自己肯定感及び自主的・実践的な態度を育成する指導を積み重ねる。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<p>総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通し、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する。 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめることができるようにする。 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 	<p>本校では主に宿泊行事への取組、防災、職業・自己の将来に関する課題を総合的な学習の内容として実施しているが、その上で以下の課題が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習を通して身に付けた地域のよさや課題についての知識はあるものの、その知識を生かしてより良い社会づくりに貢献しようとする態度に結びつかない生徒が多い。 自ら課題を設定し、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現する力が弱く、いわゆる「やっつけ作業」としている生徒が散見される。 資質・能力を育むためのさまざまな体験活動に対して、体験のみに終始してしまい、それが自己の生き方や実生活に活かされない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を設定し、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現する力を身に付けさせるために、地域の人材や機関などを有効活用し、体験・協働したことを整理・分析させプレゼンテーションさせる機会を多く設定する。 資質・能力を育むためのさまざまな体験活動の振り返り活動を行うことにより、生徒が自己の生き方や実生活に活かせるようにする。また、振り返りをさせることで、自分事として受け止めさせ、より良い社会づくりに貢献しようとする意識をもたせていく。